

# 病気の説明

## 1. B型肝炎

B型肝炎ウイルスに感染すると急性肝炎となり、そのまま回復する場合もあれば、慢性肝炎となる場合もあり、一部劇症型肝炎といって、激しい症状から死に至ることもあります。

## 2. インフルエンザ菌b型（ヒブ）

ヒブは、ヘモフィルス・インフルエンザ菌b型（冬に流行るインフルエンザウイルスとは関係ありません）の細菌で肺炎、敗血症、喉頭蓋炎症など様々な感染症を引き起こし、特に重篤な感染症がヒブによる細菌性髄膜炎です。髄膜炎は、脳や脊髄を包んでいる髄膜に細菌やウイルスが感染して起こる病気で、発症すると治療を受けても約5%の乳幼児が死亡し、約25%は知的障害など発育障害や聴力障害などの後遺症が残ります。

## 3. 小児用肺炎球菌

肺炎球菌は、多くの子どもの鼻や喉にいる身近な菌ですが、子どもの体力や抵抗力が落ちたときなど、細菌性髄膜炎、菌血症、肺炎、中耳炎などの感染症を引き起こします。

## 4. シフテリア

シフテリア菌の飛沫感染で起こります。感染は主にのどですが、鼻にも感染します。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することもあります。発病2週間から3週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすことがあるため注意が必要です。

## 5. 百日せき

百日せき菌の飛沫感染で起こります。百日せきは、普通のかぜのような症状でじまります。続いてせきがひどくなり、顔をまっ赤にして連続的にせき込むようになります。せきのあと急に息を吸い込むので、笛を吹くような音が出ま

す。熱は通常出ません。乳幼児はせきで呼吸ができず、くちびるが青くなったり（チアノーゼ）けいれんが起こることがあります。

## 6. 破傷風

破傷風菌はヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中にいる菌が、傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。菌が体の中で増えると、菌の毒素のために、口が開かなくなったり、けいれんを起こしたり、死亡することもあります。患者の半数は本人や周りの人では気がつかない程度の軽い刺し傷が原因です。土中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。

※飛沫感染・・・ウイルスや細菌がせきやくしゃみなどにより、細かく唾液や気道分泌物につつまれて空気中へ飛び出し、約 1m の範囲で感染させることです。

## 7. ポリオ

ポリオは「小児まひ（急性灰白髄炎）」と呼ばれています。ポリオウイルスはヒトからヒトへ感染します。感染したヒトの便中に排出されたウイルスが、口から入りのど又は腸に感染します。感染したウイルスは 3 日から 35 日（平均 7 日から 14 日）腸の中で増えます。しかし、ほとんどの場合、症状が出ず、一生抵抗力（免疫）が得られます。症状が出る場合、ウイルスが血液を介して脳や脊髄へ感染が広がり、麻痺を起こすことがあります。ポリオウイルスに感染すると 100 人中 5 人から 10 人はかぜ様の症状を呈し、発熱を認め、続いて頭痛、嘔吐があらわれます。

## 8. BCG

BCG は結核の予防接種です。結核は、結核菌の飛沫核感染によって感染します。わが国の結核患者はかなり減少しましたが、まだ 3 万人近い患者が毎年発生しているため、大人から子どもへ感染することも少なくありません。また、結核に対する抵抗力（免疫）は、お母さんからもらうことができないので、生まれたばかりの赤ちゃんもかかる心配があります。乳幼児は結核に対する抵抗力が弱いので、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。

## 9. 麻疹（はしか）

麻疹ウイルスの空気感染によって起こります。感染力が強く、予防接種を受けないと、多くの人にかかる病気です。発熱、せき、鼻汁、めやに、発疹を主症状とします。最初 3 日から4日間は 38℃前後の熱で、一時おさまりかけたかと思うと、また 39℃から40℃の高熱と発疹がでます。高熱は3日から4日で解熱し、次第に発疹も消失します。

## 10. 風しん

風しんウイルスの飛沫感染によって起こります。潜伏期間は2週間から3週間です。軽いかぜ症状ではじまり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが症状です。そのほか、眼球結膜の充血もみられます。発疹も熱も約3日間で治るので「三日ばしか」とも呼ばれることがあります。妊婦が妊娠早期にかかると、先天性風疹症候群と呼ばれる病気により心臓病、白内障、聴力障害などの障害を持った児が生まれる可能性が高くなります。

## 11. 水痘（水ぼうそう）

水痘一帯状疱疹ウイルスの初感染によって起こります。感染力の強い病気です。5歳までに約80%の子どもがかかるといわれています。主な症状は発疹、発熱で、発熱の程度は通常38℃前後の発熱が2～3日続きますが、40℃を超えることもあり、その際に熱性けいれんを合併することがあります。特に妊婦の場合重症がしやすいといわれていますが、出産前5日から出産後2日までに妊婦が発症すると、出生した児も水痘を発症し、とても重症になります。

## 12. 日本脳炎

日本脳炎ウイルスの感染で起こります。ヒトから直接ではなくブタなどの体内で増えたウイルスが蚊によって媒介され感染します。7日から10日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になります。

### 13. 子宮頸がん

子宮頸がんとは、子宮の入口（頸部）に発症するがんで、全国で年間約15,000人に発症し、約3,500人が死亡しているとされています。子宮頸がんは、20歳代から30歳代の女性に発症するがんの第1位であり、発症率は過去20年で2倍以上に増加しています。初期段階では無症状ですが、がんが進行すると、異常なおりもの、不正出血、性交時出血、下腹部痛などの症状が現れてきます。治療方法や予後などはがんの進行状態や全身状態によって異なります。